

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年2月9日

事業所名 ハッピーキッズ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	1	活動内容や利用人数によってグループ分けするなど分散させている。	10名の利用人数のグループ分けが適切に行われるように日々の児童の行動観察に努めたい。
	2	職員の配置数は適切である	5			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	1	・階段に手すりが無いため、必要な児童は職員と手を繋ぐなど工夫している。 ・刺激となるため壁面には出来る限り掲示物は取り除いている。	・階段に手すりがついていないため、今後設置も検討していきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5		・日々清掃を行っている。 ・季節に応じて加湿や除湿を心掛け、清潔で安全な環境となるように工夫している。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		・週1回のケース会議にて情報共有やフィードバックを行っている。	・来年度からは児童の預かり時間が変更となり、職員全員が参加できる会議の機会が減ることが予想されるため、全員が確認できるツールを活用していく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		・年1回の評価アンケートだけでなく、いただいたご意見には、適宜対応している。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		事業所HPIに掲載かつ、利用者専用アプリからも確認いただけるようにしている。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2		第三者委員会は設けていないが、外部の運営コンサルタントから助言を受けているため継続したい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		・年間4回は研修を受けている。 ・療育のすきま時間にいつでも視聴可能な研修動画を見ている。	・利用児童の年齢層が2歳～小学3年生と幅が広いので、研修テーマの考案が課題であった。来年度は事業所が分散するため、年齢や発達段階、特性にそった研修を受けられるようにする。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5		・保育士が受けた相談等も児発管に報告を欠かさず、支援に反映した。 ・支援計画の更新は6か月ではなく、必要に応じて行うことができた。 ・必要に応じて現場の保育士も	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5		・HUGという運営サポートシステムを取り入れているため、網に共通認識を持てる。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容	5		・個別支援計画に明記している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5		・日々のサービス提供記録に個別支援計画の振り返りがあるため、常に意識できている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		・2週間ごとに活動内容を変更している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5		・集団療育の中でも個別活動に取り組みるようにスケジュールを組んでいる。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		・朝礼、昼礼にて確認している。 ・週1回のケース会議で全体の振り返りを行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1		・送迎業務の関係で午後の療育後の振り返りの時間が持てないこともある。 翌日に持ち越すときには、申し送り事項を業務日報に記載する。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		・HUGに職員で共有できるツールがあるため、そちらに記録している	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5				
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		・児発管が基本的には参加するが、必要に応じて保育士も同席することがある。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			該当なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			該当なし	

関係機関や保護者との連携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		・個別支援計画の共有を行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		・個別支援計画の共有を行っている。	・学校によっては連携できていない所もあるため、広く連携できるように働きかけていきたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	1	・おおぞら児童園さんや、多気地域児童発達支援センター主催の研修を受けた。	・業務の都合上全員に受講機会がなかったため、全員が受けられるように配置を考えたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		5	・特定の保育所等と交流はないが、近所の公園や図書館や児童センターを利用した際には関わりを持っている。	・通っていることを知られたくない保護者様もいる中で事業所主催でそういった機会を設けるためには課題があると思う。 ・発達の有無に関わらず、地域の様々な人と関わることができるように提供内容や方法を考えていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	3	・自立支援協議会への参加はできた。	・開催しているところがわからない状況なので、地域の情報を確実に得られるように地域の相談支援センターとの連携を深めたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		・お引き渡し時に保護者様と情報共有しており、提供記録にも記載している。 ・ご質問いただいたことなどは個別に対応している。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	1		・事業所としては個別対応しているが、どの職員も保護者に助言等できるように整えていきたい。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		・利用契約時に運営規程をお渡し、説明している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5		保護者会はないが、来年度は保護者向けの学習会などの機会を設けたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	1	・保護者向けにはLINE、HUGにて活動概要を伝えた。また玄関先の掲示コーナーにも書面にてお伝えしている。 ・SNSを使い動画など多様な発信方法をとっている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		・専門用語などは簡単な言葉に置き換えている。 ・利用者様に応じて利用日の確認や送迎時刻の連絡などこまめにLINEで伝達している。	
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5			
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	1	・年2回は実施している。	・訓練の回数が、児童が身に着くほどの回数を重ねられていないため、実際の非常時の避難に不安がある。来年度は訓練回数を増やしていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	1	・年2回は実施している。	・先延ばしになってしまうこともあり定期的ではなかった。来年度は防災週間として予め年次計画に盛り込む。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1	食事は提供していないが、インテーク時に、アレルギー有無を確認している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1	・事案発生時には昼礼などのタイミングで共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		・研修を実施した。 ・虐待防止指針を作成して職員に共有している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5		・現在身体拘束を実施せざるを得ない状況にはないが、指針を作成して職員に共有している。	